



# みどりの風

平成27年9月1日発行

校報 第522号

〔みどりの風 第65号〕

練馬区立関町北小学校

## 子どもの心に灯をつける

校長 大野 泰弘

今年の夏は、戦後70年、日航機事故30年、高校野球100年と、それぞれの節目を迎えた夏でした。一つ一つに関連する報道をとおり、平和の尊さ、安全への思い、生命の重さ、また、夢をもって情熱を傾けるひたむきさ等々、皆様のご家庭におかれましては、将来の家庭、社会や国、そして、世界の平和と発展を担っていく子どもたちと共に様々なことを話題にされ、思いや考えを共有されたのではないかと推察いたします。

暑かった今年の夏休みは終わり、学校にはこの猛暑を元気に過ごした子どもたちの明るい笑顔が戻ってきました。残暑はなお厳しいですが、季節は少しずつ秋に向かっていきます。9月以降も家庭・地域との連携を深めながら、子どもたちのためによりよい教育環境を整えてまいりたいと考えております。

さて、多くのことを考えさせられたこの夏、宇宙飛行士の油井亀美也さんが、国際宇宙ステーションにおける長期滞在クルーとしてのミッションを始めました。日本時間で7月23日のことでした。

その油井飛行士がソユーズ宇宙船の打ち上げ前に次のようなことをおっしゃっていたそうです。

「こうして宇宙飛行士になった今思い返してみると、子どものころに故郷の川上村〔長野県〕の星空を眺め、その美しさに出会わなければ、宇宙への思いをもつことはなく宇宙飛行士への道もなかった。」

油井宇宙飛行士は、航空自衛隊の隊員から宇宙飛行士になられたということですが、空を飛ぶことや宇宙への憧れというのは、子どもたちの自然との出会い、あるいは故郷における生活が原点にあったのではないのでしょうか。

また、油井宇宙飛行士は、JAXAのホームページの中で、次のメッセージを残しています。

「結果がすぐに出なくても、諦めずに努力を継続することで、自分自身の未来の可能性を切り開くことができるのです。みなさんには、きっと自分が思う以上の能力が秘められています。そして、結果にかかわらず努力を継続する人には、必ずその努力をサポートしてくれる仲間が現れるはずです。失敗は諦めずに努力を継続する人にとってのみ、成功の種なのです。」

学校は、子どもたちにとって、歴史や文化を学び、知識や技能を身に付けることは勿論ですが、それだけでなく、将来に向かって大きな夢や希望を育む場になることも大切であると思っています。子どもたちが、今後の人生を形作っていく過程において、自ら進んで仕事に立ち向かう、自分の夢を追いつけるために努力を積み重ねていこうとする、そのきっかけになるような種を、たとえ今すぐには芽が出なくても、どれだけ子どもたちの心に撒いていけるか、それが学校の役割の一つでもあると思います。もとより、その種を撒くのは日々の授業が中心になりますが、油井飛行士の場合には、それが「星空」でした。子どもたちが将来の夢・希望・憧れをもつきっかけは、授業だけに限らず、自然であったり、人との出会いであったり、経験であったり、様々にあるはずです。

アメリカ合衆国の著名な哲学者であるウィリアム・アーサー・ウードが次のような言葉を残しています。

The mediocre teacher tells.	凡庸(平凡)な教師は指示をする。
The good teacher explains.	よい教師は説明をする。
The superior teacher demonstrates.	優れた教師は(自ら)範となる。
The great teacher inspires.	偉大な教師は(子どもの)内なる心に灯をつける。

この「子どもの心に灯をつける」とは、「子どもの将来の夢や希望につながる種(教育活動)を広く撒いていく」ことであると思います。その種の中には失敗や挫折も含まれるかもしれませんが、油井飛行士のように努力で克服することができれば、学校生活に主体的に取り組んでいこうとする子どもの意欲を引き出し、学校生活の楽しさを味わうことにもつながっていくと思います。私たちは、そんな希望の種を子どもたちの心に撒くことのできる教師をめざし、日々の授業を大切に、そして、様々な方々のお力もお借りしながら努力してまいります。子どもの心に灯をつけるため、引き続き、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。